

授業の様子

「全ての人が活躍できる社会へ向けて」後半授業スタート！

第7回の授業からは社会パートに入り、「社会に向き合うプロジェクト」が始まりました。本パートでは、自分たちがどのように自主自律の道を歩むのかを考えはじめる契機となるように、全ての人が活躍できる社会とはどのようなものかを考え、個々人がベストパフォーマンスを発揮することを阻んでいる社会問題や、社会的な良い動き・成果に関するテーマを決め、自分たちで調べ、考え、意見交換を行います。意見交換を行う際は、物事や情報を無批判に受け入れるのではなく、「本当にこれで正しいのか」という視点を持って物事をみる「クリティカルシンキング」の視点を意識してグループワークを行い、第13回の授業で自分たちが取り組めることについて発表をおこない、グループワークを通して協同性と発信力を身につけることを目的としています。

推薦図書を読んでみて

社会パートに入るまえの事前課題として、本学図書館のご協力のもと蔵書のなかから抜粋された推薦図書および関連本を読んだ感想を一部ご紹介します。



～そもそも何故結婚するのか～

本を読んでみて、社会的に行われている動きとして私が一番気になった問題は、「子供が産めないのに同性婚は必要なのか」という問題だ。結婚とはそもそも何故するのか、子供が欲しいから結婚するのか、愛しているからするのか、答えはどちらも正しいと思う。ではなぜ同性同士では結婚することができないのか。それは日本に凝り固まった思想があるからではないかと私は考えている。この問題に関して本の中でも「そもそも何故結婚するのか」と結婚の意義を考え講義し合っていることがとても興味が湧くものだった。

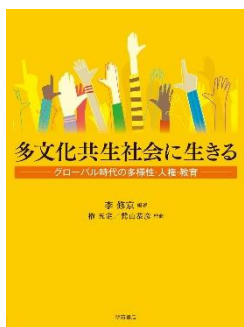
一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同著『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた：あなたがあなたらしくいられるための29問』（明石書店）



～プラスチックは悪ではない～

プラスチック汚染についてニュースで見聞きしたり、高校の授業で調べたりしたことがあり、さらに詳しく知りたいと思い、本を読んでみて、レジ袋の有料化や紙ストローの普及などは知っていたが、ポリエステルなどの合成繊維を洗濯するたびにマイクロファイバーが放出されている可能性があり、洗濯の排水がプラスチック汚染につながることを知り、思ってもみなかったところでも影響を及ぼしていることに絶望的な気持ちになった。日本ではレジ袋に象徴される廃プラ問題は、氷山のほんの一角であり、全体像は深く、多岐に渡ることに驚かされた。しかし忘れてはいけないのは、プラスチック=悪ではないということだ。環境を守っていくために、自分にできることから行動していくのが一番の近道だと感じた。

枝廣淳子著『プラスチック汚染とは何か』（岩波書店）



～人種差別の歴史を学ぶだけでなく～

最近、人種差別(レイシズム)について聞く機会が多くがあり、なぜ同じ人種なのに色の違いや国の違いでこんなにも大きな社会問題が生じてしまうのか気になったのでこの機会に調べてみた。人種差別はその人が生きてきた環境による個人の価値観、集団心理、戦争の歴史を学んだ上での知識が関係してくると考えた。この状況を変えていくには、人種や一人ひとりの性格について深く考え、次世代に伝えていく必要がある。人種差別をなくすことはSDGsの目標にも登録されており、異文化に触れる機会も増え差別がなくなるきっかけになると感じた。私は人種差別の歴史を学ぶだけでなく、これからの未来に向けてどう行動すべきかの教育が重要だと考えた。私たち自身が異文化について学ぶことでより良い社会が築いていけるのではないだろうか。

李蔚京編著『多文化共生社会に生きる/グローバル時代の多様性 人権教育』（明石書店）

誰とどんなテーマについて話しましたか？



第9回授業の事前課題にて
学生が誰とどんな対話をして、
どう考えたのかを
ピックアップしてご紹介します

●相手/父親 テーマ/プラスチック汚染

海外では、プラスチックを出した企業などが責任を持ってプラスチックを回収するという取り組みが行われているのに対し、日本ではその取り組みは行われていない。プラゴミの排出量が多いアジアで、先進国である日本が、危機感を持たず、プラスチック汚染に対する取り組みを行っていないのはおかしいのではないだろうか。日本も海外と同様に、現状を受け入れて、悪化を防ぎ、次の時代を守るために具体的な取り組みをするべき。

●相手/幼馴染 テーマ/男女の固定概念について

男はこうあるべき、女はこうあるべきといった考えがよくないため、色とか形ではなくて文字で表せばいいのではないかと考えた。男女で区別しなければいけない問題もたくさんあって、銭湯やトイレをジェンダーレスにするのは難しいし、区別するべきところと区別するべきではないところをしっかりと判断することが大切である。

●相手/高校の友人 テーマ/ジェンダー

女性の働きやすさに積極的に取り組む企業も多くあるが、ジェンダーギャップ指数は未だ低いままである。一過性の支援とならないよう、全社を巻き込んだ意識改革から始めていくことが必要で、身近なところでは、普段の生活の中で使う言葉などに気をつける必要がある。何気なく使った言葉にジェンダーバイアスがかかっていたり、無意識に差別や偏見を含んだ言動をしているかもしれないため、まずはジェンダーバイアスが何か、正しい知識を身につけ理解し、意識していくことが大切だと感じた。

●相手/母親 テーマ/LGBTQ

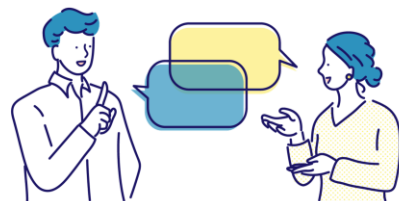
LGBTQについて偏見があるのは、LGBTの考えを受け入れない頑固な考えを持っている大人が多いからだと思っていたが、母の意見を聞いてみて、そもそも知る機会がないためLGBTQに偏見を持つ人が多いと考えた。反対に現代の中高生は知る機会が多いため偏見が少ないと考えた。講演会を開けば知る機会が増えるのではと考えたが、母と話し合うなかで、興味がないと講演会にいかないということに気づき、自然と目につくような方法で知ることができれば普通だと認識することができると思い、ドラマや映画の登場人物が様々な性であり、尊重しあっていれば、LGBTを自然と知ることができ、偏見も少なくなると考えた。

●相手/同級生 テーマ/AI化について

少子高齢化になっていき、人手不足になっている職業もあるため、AIが代用できない仕事に人々は就くべきだと思うという友人の意見を聞き、AI化で人間の仕事が奪われてしまい、それを恐ろしいと私は捉えていましたが、AI化することのメリットを考えることができた。しかし、自分のやりたい仕事に就くことができなくなるかもしれない、AI化することにより職業を奪われてしまう場合があるのではなどといった問題もあると思うため、コンピューターと共存していき、よりよいものを目指していく効率の良さを考えてAIを使用することが必要だと感じた。共存していくことの課題としては、人間とAIは、気持ちをやり取りできないことに対してどう対処していくか考える必要があると感じた。

お知らせ

SAと教員による合同意見交換会を開催します



8月1日(火)にSAと教員による合同意見交換会を実施します。次年度以降の「スタートアップセミナー自主自律」の内容の充実化や運営効率化に繋がられるよう、今年度授業実施後にSAと教員の双方で振り返りを行います。当日の様子については次回以降の広報誌でご報告します。

スタートアップセミナー自主自律に関する問い合わせ先

学修・教育開発センター（板橋校舎 百周年記念館1階）

TEL : 03-3961-0284 E-mail : startup@tokyo-kasei.ac.jp